

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成27年度病害虫防除情報第12号

イチゴの病害虫対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

うどんこ病については、昨年末から高い発生程度で推移しています。今後、気温の上昇に伴い、発病の増加が予想されます。引き続き適期防除を徹底しましょう。

- 1 作物名 イチゴ
- 2 病害虫名 うどんこ病
- 3 発生状況（経過）

2月中旬における巡回調査の結果は、次のとおりであった。

・うどんこ病（葉）

発生面積率：69.3%（前年23.1%、平年32.0%） 平年より多

発病葉率 ：8.0%（前年1.7%、平年2.6%） 平年より多

・うどんこ病（果実）

発生面積率：53.9%（前年23.1%、平年9.2%） 平年より多

発病果率 ：2.3%（前年0.5%、平年0.5%） 平年より多

葉では、発生面積率および発病葉率ともに過去10年の同時期と比較して最も高い数値となっている（図1、図2、図5）。

果実でも、発生面積率および発病果率ともに過去10年の同時期と比較して最も高い数値となっている（図3、図4、図6）。

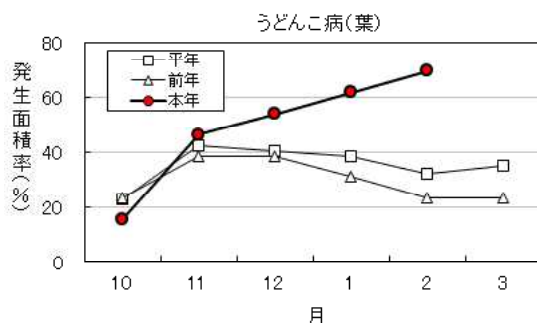


図1 うどんこ病（葉）の発生面積率

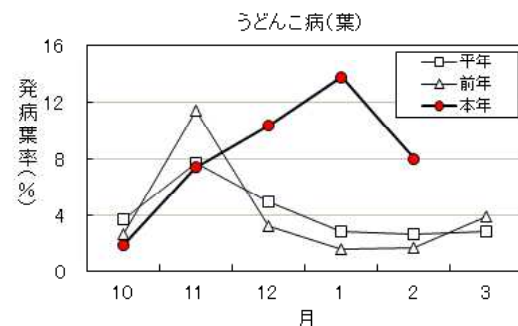


図2 うどんこ病（葉）の発病葉率

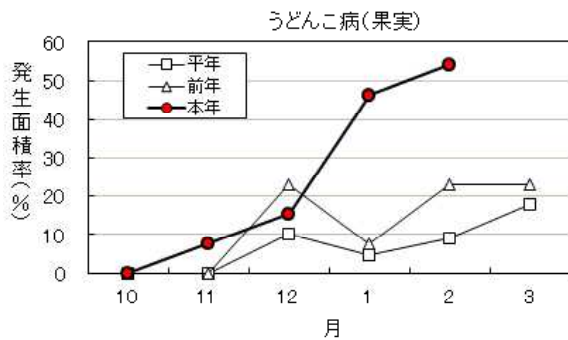


図3 うどんこ病(果実)の発生面積率

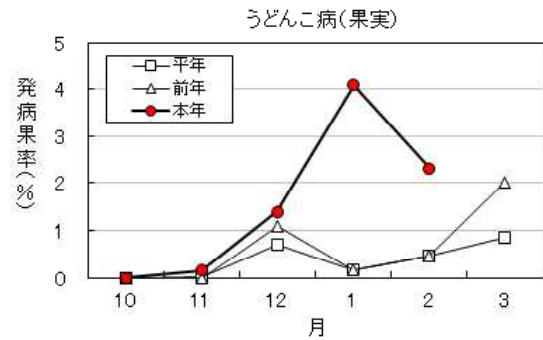


図4 うどんこ病(果実)の発病果率

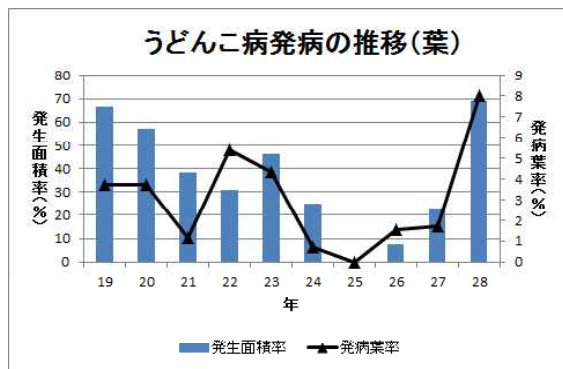


図5 過去10年における発生推移(葉)

注) いずれの年も2月中旬の調査結果による

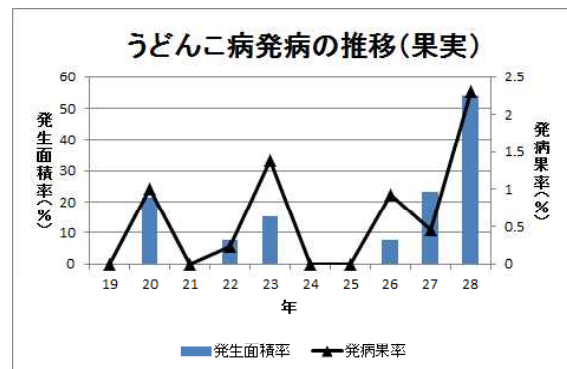


図6 過去10年における発生推移(果実)

注) いずれの年も2月中旬の調査結果による

4 防除上の注意

- 1) 過度な高湿度条件にならないようにハウス内の通風、換気に努める。
- 2) 葉・果実・葉柄・果梗・蕾に発生する。今後、気温の上昇に伴い、発病の増加が予想されるので、ほ場をよく観察し、定期的に予防散布を実施する。
- 3) 春先に草勢が衰えたときに多発生する傾向があるので、草勢低下を防止するために適切な栽培管理を行う。
- 4) 発症した葉・果実は可能な限り除去し、すみやかにほ場外に持ち出し適切に処分する。併せて、できるだけ早く防除を行うが、葉裏・果実にしっかり薬液がかかるように丁寧に散布する。
- 5) 予防散布を中心に防除を実施するが、発生が多い場合は一週間程度の間隔で連続して防除を行う。その際、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統のローテーション散布に努める。
- 6) 農薬の選定に当たっては、天敵およびミツバチへの影響を十分に注意する。

5 その他

- 1) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- 2) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課
 (病虫害防除・肥料検査センター) 久野
 TEL: 0985-73-6670 FAX: 0985-73-2127
 E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp